

## 歯科口腔外科

### ■ スタッフ

科長	新井 直也
副科長	黒原 一人
医師数	常 勤 7名
	非常勤 10名
	研修医 3名
歯科衛生士	3名
歯科技工士	2名

### ■ 診療科の特色・診療対象疾患

#### 1. 特色

当科は、口腔・顎・顔面領域に生じる多岐にわたる疾患を対象とし、その治療や予防を行っています。県内唯一の大学病院の歯科口腔外科であり、3つの診療を柱に据えています。第一に、治療成績が安定し国内で広く受け入れられている標準治療の提供を心がけています。第二に、高次医療機関として口腔がんや顔面外傷などにおいて先進的治療を手がけています。第三に、地域の医療機関との連携を密にしています。これらを診療の鼎として、大学病院の口腔外科に求められているニーズに応えるよう努めています。

#### 2. 主な診療対象疾患

##### 1) 口腔外科疾患

良性・悪性腫瘍、炎症、外傷、嚢胞、発育異常、顎変形症、咀嚼障害、埋伏智歯、歯性上顎洞炎、唾液腺疾患、など

##### 2) 口腔内科疾患

口腔粘膜疾患、神経疾患、など

##### 3) 特殊歯科治療

有病者の全身管理下での歯科治療、身障者の歯科治療、局所麻酔での治療が困難な方の全身麻酔下での歯科治療、入院患者さんの歯科的処置や口腔衛生指導、など

### ■ 診療体制と実績

初診：月曜～木曜午前、全身麻酔手術：水曜及び金曜日。

(公)日本口腔外科学会口腔外科指導医、専門医及び認定医が常勤として診療を行っており、(公)

日本矯正歯科学会認定医が非常勤として診療を行っています。

また、県内の関連病院である紀南病院、伊勢赤十字病院、三重中央医療センター、三重病院、南勢病院、鈴鹿病院、いなば園、障害者歯科センター、こころの医療センター、上野市民病院、心豊苑に当科から歯科医師を派遣しています。

外来初診患者数(2021年実績):3,238名/年、外来延べ再来患者数:15,588名/年、入院患者数:273名/年、病床数:14床、外来ユニット数:12台、全身麻酔症例数:236名/年。

### ■ 診療内容の特色と治療実績

#### 1. 診療内容の特色

- 下顎の埋伏智歯の抜歯における合併症の一つに、下歯槽神経障害による下唇・オトガイ部の知覚麻痺があります。当科では歯科用CTを用いて智歯と神経の関係を詳細に分析し、本合併症のリスク低減に努めています。
- 顎骨腫瘍、顎変形症、顎顔面骨折、顎骨再建等の治療において、CTによる3次元構築画像や3Dプリンターを用いた立体模型やナビゲーション手術を積極的に活用しています。
- 口腔がんの局所進展症例や切除不能な再発症例に対し、放射線治療科の協力のもと超選択的動注化学療法を行っています。
- 歯科インプラント治療では、腫瘍切除後の保険適応インプラント手術や、歯槽骨の萎縮により埋入時に骨造成を必要とする症例を手がけています。骨造成には、GBR、ブロック骨移植、上顎洞底挙上術(サイナスリフト)、歯槽骨延長術を適宜選択し、インプラント適応症例の拡大を図っています。
- がんや心臓の手術、臓器移植、あるいは、がんの化学療法、頭頸部領域の放射線治療において、口腔衛生状態の改善が術後の創部感染や肺炎の予防に有効であり、在院日数の短縮に寄与することが認知されています。当院では、平成25年6月に口腔ケアセンターを立ち上げ、周術期の口腔衛生管理への系統的な取り組みを開始しています。
- 当科では歯科矯正専門医が月1回診察を行っています。顎変形症など口腔外科疾患に関連した矯正治療を中心に行っていますが、広く不正咬合全般について診察・相談を行っています。

## 2. 診療実績

### 【外来受診症例数（2021年実績）】

唇裂口蓋裂	2
顎変形症・発育異常	34
外傷	41
炎症	92
口腔粘膜疾患	403
嚢胞	103
良性腫瘍・腫瘍類似疾患	58
顎関節疾患	62
神経性疾患	19
唾液腺関連疾患	6
悪性腫瘍	37
歯	1,992
睡眠時無呼吸症候群	5
その他	11
合計	3,336

### 【入院手術症例数（2021年実績）】

抜歯・歯槽骨関連	154
消炎	9
顎骨嚢胞・良性腫瘍	52
唾液腺・上顎洞関連	4
外傷	18
顎変形症	16
癌・前癌病変関連	24
顎骨再建関連	5
その他	5
合計	287

## ■ 臨床研修教育

歯科臨床研修の目的は、口腔領域の医療と保健に関する総合的な知識と技術を習得し、歯科医師に求められる基本的な診療能力を身につけることです。口腔外科外来・病棟への配属に加え、研修プログラムに麻酔科研修を取り入れています。

これまでの臨床研修医受け入れ実績は、過去9年間では、H24年度5名、H25年度4名、H26年度1名、H27年度4名、H28年度1名、H29年度2名、H30年度4名、H31年(R元年)度1名、R2年度5名、R3年度3名です。

## ■ 今後の展望

- 口腔がんは、多くが肉眼で確認できる部位に発生します。地域の歯科医師会と連携し、健診や啓蒙活動を通して口腔がんの早期発見・早期治療につとめます。
- 一般歯科矯正では治療が困難な不正咬合に対し、外科矯正手術やアンカーインプラントを用いた咬合改善治療を行います。
- 当院には眼窩、鼻部、上顎にまたがる中顔面骨折が多く救急来院されます。各科と連携し速やかに治療を開始し、術後の機能や審美性の改善に寄与していきます。
- 口腔インプラント等を用いた口腔・顎顔面の機能再建にこれからも取り組んでいきます。
- 口腔ケアセンターを介して、他科治療中の方の支持療法の一環としての口腔衛生管理や指導を担当します。また、かかりつけ歯科医での治療が困難な有病者等の歯科治療を行います。

<http://www.medic.mie-u.ac.jp/omfs/>